



UHB大学38期生を迎えた入学式

4月8日 新入学生45名の入学式典が行われた。

令和7年度の入学式が、UHB北海道文化放送代表取締役社長鶴井亨の挨拶から始まった。「第38期生を迎える入学式が本日举行されることをとても嬉しく思っています。

本年度の新入学生は45名、最高齢は87歳、最年少は63歳、平均年齢72歳の方々が集まっていたきました。大学全体の学生数は254人になります。一般教養講座のテーマは多岐に渡り、タイムリーなものになっています。本日この後、講演していただきます日本医療大学の島本先生のお話も、とてもためになると思っています。課外活動としてバス旅行、料理教室、ビアガーデンでの懇親会、麻雀大会、忘年会もあると聞きます。こうした機会を通じて交流を深めていただけたらと期待しています。せっかくの機会ですので、UHBの取り組みについてもお話をさせていただきます。「全ては北海道



のために」というコーポレートメッセージを掲げ、夕方の情報番組の「発見！タカトシランド」を中心に、道民の皆様にご喜ばれる番組作りに取り組んでいます。今後も地方テレビ局ならではのコンテンツを通じ、道民を元気づけ、北海道の発展に寄与する企業を目指して参りますので、ご支援をいただけたら幸いです。最後になりますが、新入学生をはじめ在校生の皆様にはますますお元気で、そして大学が発展することを祈念してご挨拶いたします。ありがとうございますと祝辞を述べた。



次にUHB大学加藤絃之学長より「新入生の皆様、入学、誠におめでとうございます。心から感謝、歓迎申し上げます。皆様はUHB大学の38期生になります。皆様の年齢をお聞きしましたところ、60歳代が15名、70歳代が25名、80歳代が6

名とのことでございます。この後、在校生代表のご挨拶をしていただき、泉さんは91歳、大変お元気です。さて、皆様はご承知と存じますけれども、総務省の2019年の発表によりますと、認知症の発症率は60歳代で1〜2%、70歳代の後半になりまして約10%、80歳代の後半で28%、95歳を超えるとなんと54%の方に症状が現れるそうです。さらに各年代、いわゆる軽度認知症が20%上積みされるということです。しかし、この数値はあまり深刻に考えなくても良いのではないかと私は思います。島本先生からこの後ご講演いただき、詳しく話がありま

すが、認知症の発症を遅らせることができるのは、これはもう個々の60歳後半の生き方次第と言ふことのようにございます。結びの言葉になりますが、私たちは一人では生きていきません。どうかこの大学での学び、午後の選択講座などを通して友を大切にしながら、これからも健康チェックを十分に行つた上で、誉れ高く、今日もいい1日だったと思える日が多からんことをお祈り申し上げますと述べた。

続いて新入生を代表して本田健一さんが向学の決意を述べ、在校生代表として35期の泉敏博さんから歓迎の言葉が述べられた。

そして、入学記念講演は日本医療大学島本和明総長より「高血圧・糖尿病・認知症の予防と生活習

慣」について語られた。「生活習慣病、高血圧、糖尿病、そして認知症。高齢者が増えるとともに当然増える病気で非常に大きな話題であり、テーマであると思います。これら病気の予防策として共通していることが運動をすることです。いろいろな本では週4回の運動や毎日1万歩など高齢者にとってはかなりきつい運動です。日本人の特性として目標に達しないと意味がないからやめしてしまうという傾向がありますが決してそうではなく、1日5000歩でも少しの運動でも体を動かすことをすれば死亡リスクが減るということも言われています。何かしなれば絶対に結果は出てこない。明日からやろう、そのうちやろうではなく、今日、今からやろうと思うことこそ予防するコツだということをお忘れないうでいただきたい」と講演を締めくくった。





新入生代表
本田 健一
(38期生)

年代や経験が異なる
多様性こそが、新しい学びを
より深いものにする

皆様、本日はお忙しい中、私たち
新入生を迎えるためにお集まりい
ただき、心より感謝を申し上げます
す。このような節目の場で代表とし
てご挨拶をさせていただけることを
大変光栄に思います。

さて、織田信長が舞った「敦盛」の
一節に「人間(じんかん)五十年、下



在校生代表
泉 敏博
(35期生)

生涯学習の楽しさを語る

38期の新入生の皆様、本日は
UH B大学へのご入学本当におめ
でとございます。私も35期生と
して数年前にこの会場の席に座り
「これから大学生生活だ。いいなあ、
でも少し不安だな」という気持ちで
いたことを思い出します。

ご存じのように、この大学は午前

天のうちをくらぶれば、夢幻のごと
くなり」とあります。人生は儚く、
夢のように過ぎ去るもので懸命に
生きなければならぬという意味で
すが、現代では、「人生100年時
代」と言われるようになり、私たち
の生涯がかつて以上に長く、多様な
可能性に満ちたものとなっていま
す。この時代背景の中で学び続ける
ことの重要性はますます高まり、人
が新しい挑戦をすることには特別な
意味があると感じていきます。

私は、昨年6月末をもちまして、
47年間勤めた金融機関を卒業し、
新たな挑戦としてこのUH B大学
に入学することを決意しました。金
融業界での様々な職務を通じて、学

の一般教養講座と午後の選択講座
科目に分かれています。一般教養講
座は、我々の生活には欠くことので
きない、毎日の生活の衣食住や文
化、歴史などありとあらゆるものが
網羅されています。先生方の肩書
も、非常に立派な方々ばかりで、お
そらく難しい大学の講義のような
内容が始まるのかと内心不安に思っ
ていましたが、蓋を開けてみますと
、横文字や専門用語などはほと
んど使わず非常に優しい平生の言
葉でお話ししてくれるので、私は
「よし、これなら4年間いけるかもし
れない」とほっとしました。そして優
しい先生の中には、もしも疲れた場

び続ける姿勢がいかに重要かを痛
感しました。「人生100年時代」
において、自分自身の可能性を再
発見し、新しい視点や知識を得るこ
とで、人生の新たなページを刻むこ
とができると信じています。この大
学での学びを通じて、これまでの経
験を活かしながら、今まで出会っ
たのなかつた分野や考え方に触れる
ことで、新たな地平を切り開きたい
と願っています。また、UH B大学
は世代やバックグラウンドの異なる
方々が集い、互いに刺激し合い、支
え合いながら成長する場所であるこ
とに大きな魅力を感じています。年
代や経験が異なる多様性こそが、
新しい学びをより深いものにするこ

合には目をつぶっていてもいいよと、
おっしゃる方もいました。そこで私は
調子に乗って、一句川柳を捻りまし
た。うなずいて今朝得た講義何
処へやら、これがUH B大学川柳コ
ンクール最優秀賞として入賞しまし
た。私は嬉しかったです。私の句に
投票してくれたこと、似たような考
えの方がいるのだな、「よし頑張ろ
う」という気持ちになりました。午
前の授業が終わる午後になりますと
、20有余の中から選べる選択科目
です。これまで全く何も作ったこと
もありませんでしたが、陶芸を選択
し色々なものを作りました。秋に
は皆さんの集大成となる文化祭と

信じています。どうぞ皆さん、これ
から始まる時間を共に楽しみ、励ま
し合いながら成長していきたいよう
日々、新しい発見や挑戦にワクワク
しながら一歩一歩前進していくこと
で、私たち自身の可能性をさらに広
げることができるとしよう。皆様と
共に努力し、充実した日々を築けて
いけることを楽しみにしています。
どうぞよろしくお願いをいたします。
最後となりますが、この貴重な機
会を提供してくださった大学関係
者の皆様、そして今日という日を迎
えるにあたり、お力添えをいただい
たすべての方々、心より感謝申し上
げまして、38期生代表の挨拶とさせ
ていただきます。

いう発表会があります。カラオケ、
健康太極拳など身体を使った表
現、造形物の発表。陶芸の皆さん
の気持ちのこもった作品は「いや!
すごいね」「どこで覚えたの?」「
ちよつとこは直したほうがいいか
な」などいろいろの会話が交わされ、
毎回嬉しさと楽しさで溢れます。
このような立派なUH B大学、
他に類を見ないと思います。どうか
今日入学された皆様、今日のこの
新鮮な気持ちをつまみでもお忘れ
なく、生涯学習を一緒に学んでい
きたいと思えます。甚だ粗辞ではご
ざいますが、私から皆様への歓迎の
ご挨拶とさせていただきます。

令和6年度学位授与式

3月18日共済ホールにて名
誉博士課程7人、博士課程6
人、修士課程12人、学士過程
9人に修業証書、卒業証書が
授与された。

学位授与式は、UH B大学讃歌を
斉唱し開幕した。初めにUH B大学
加藤紘之学長より「今日は久しぶり
に晴れまして、皆さんのこの晴れの舞
台をお祝しているようであります。
人生100年と言われるようにな
りました。我々の老化というのは、細
胞を司る遺伝子の働きに限界が起き
てきます。そうした中で人間は食べる
意欲とか世の中に対する関心事がな
くなつても、栄養さえ入れておけば
ずっと生きられるという仮説があつて、
その試みの研究は進んだのですが、そ
う順調には維持できませんでした。個
人差がありますが、65歳から85歳ま
でをどう生きたかということで、元気で
いられる期間に大いに差が出てしま
す。生活のリズム、明るさ、楽しさ、食





べる喜び、こういったものを味わっていただき、細胞の力をできるだけ長く元気にして、順調に胃の細胞も作ってくれる、脳の細胞も作ってくれるという活力にしていたきたい。これが最大の願い、UHB大学設立の医学的な意味なのです」と祝辞を述べた。

続いて証書の授与が行われ、12年の名誉博士課程を修業した26期生7人、8年の博士課程の30期生6人、6年の修士課程の32期生12人、4年の卒業生34期生9人の各代表者に手渡された。そして、皆勤精勤賞の表彰では8年間精勤の山下真さん、浅間元基さん、菊地好江さん、6年間皆勤の市村千恵子さん、6年間精勤の鎌田昭夫さん、4年間精勤の松下瞳子さんにそれぞれ賞状と記念品が贈られた。

最後に卒業生代表として34期生小山洋子さんより答辞が述べられた。「私達34期生は、コロナ禍の中で受講生が少なく入学しました。それから第5類に移行して落ち着いた環境で楽しく学べるようになり、共済ホールに場所を移して最初の卒業を迎えます。研鑽を積まれた英知を講義して下さった諸先生方、UHB大学の運営

に携わる皆様方、この大学で出会った仲間との縁に深く感謝しています。私は長く介護する生活を終え、自由な時間を得ましたので、海外旅行や山歩きで山野草を愛でるなどの楽しみを見つけていました。ところが、パニックなコロナの出現で一変します。学校閉鎖となり孫の見守りなどインドアの生活に変わりました。娘に学びの場に出ることを薦められ、UHB大学を卒業した友人に紹介され、当大学にご縁を頂きました。午前



の教養講座は文学、経済学、音楽、医療など多岐に渡る研究文献を拜聴できシテ世を脳の活性化させる一途になります。初年度は月に一度でしたが、密を避けるコロナ禍で貴重な時間を過ごせました。午後の選択講座は、旅先で絵を描く友人の影響でスケッチ画を学びたく水彩画講座に入門させ

て頂きました。3密の中、会話も控えて何も分からずのスタートでしたが、先生に励まされ、親しく声を掛けてくれる先輩に支えられて続けることが出来ています。長く続けられる趣味となるよう、これからも学びを深めていきたいと思えます。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、支えて下さった職員の皆様方にお礼を申し上げ、お互いに高め合う仲間に出会えたことに心から感謝しています。生涯学習の要の場所として、UHB大学の益々のご発展を祈念し、34期卒業挨拶とさせていただきます」

学位授与式典の終了後は、エゾンミュージック所属の新田昌弘さん、斎藤まりなさん、今井由美子さんの「北の息吹」と題し津軽三味線の演奏が行われた。津軽じょんから節や民謡メドレーなど7曲が披露され会場は大いに盛り上がった。興奮冷めやらぬ中、卒業修業記念撮影し終了した。

「大雪森のガーデン×すき焼き」 日帰りバスツアー

6月17日学生39人、事務局2人でバス旅行を開催した。上川の花と緑が織りなす美しい庭園「大雪森のガーデン」と、旭川にある老舗のすき焼きを堪能する昼食がメインとなる行程だ。天気は事務局作成してる坊主の効果薄く曇天ではあったが、バスの中では学生達が満面の笑みで楽しい会話に花を咲かせていた。出発から1時間30分ほどで男山酒造資料館に到着。男山350年の歴史と共に、酒造り文



化を伝える貴重な資料・文献・酒器などを見学した。OTOKOYAMA SAKÉ PARKでは、『お酒試飲コーナー』3種飲み比べや買物を楽しんだ。

昼食は「すき焼三光舎旭川店」へ。秘伝のみそで作られたタレと黒毛和牛ロースのすき焼きを満喫した。昼食後に向かった「大雪森のガーデン」では、珍しい花や植物が存在し、学生達は多くの植物にカメラを向け写真を撮りながら庭園の中をゆつくり探索。雄大な自然の中で心地よい時間を過ごした。愛別のきこの直売所では、きこの新鮮さと安さにびつくり！お店で用意していた商品は飛ぶように無くなり、学生の手握られた買い物袋は、パンパンでみんな笑顔だった。「また次回があったら参加したいわ！」などの言葉をいただき、ツアーは無事終了した。

ビールで暑気払い！ 納涼ビアガーデン開催

毎年恒例となった納涼ビアガーデン。今年は、会場をすすきのに変えて7月22日開催した。昨年オープンしたばかりの「Bar裏庭ビアガーデン」を貸切にして学生42人、事務局6人が参加。UHB大学を運営するトップ・クリエイションの社長として新たに就任した辻本の挨拶で開始した。気温30度を超える暑さの中、ビールを片手にジンギスカンを堪能。各講座の親睦の場として、また他講座の方々との交流の場として会は大いに盛り上がった。事務局としても皆様のご意見を聞ける貴重な場でもある。お酒の力もあつつか、時には大胆なご意見もあります。今後のUHB大学の運営に役立てていきたいと思っています。



同好会活動

パークゴルフ同好会

4月15日ギャラリー大通美術館2階会議室において定期総会を開催。令和6年度の活動報告、収支決算や会計監査、年間の皆勤賞者も報告された。また、令和7年度の活動計画案や収支予算の報告が行われた。令和7年度は、6回の月例会が予定されている。8人の新会員を迎え総会員数32人での活動をスタートした。

男性			女性		
優勝	山下 貢 (UU会員)	スコア103	優勝	伊達三和子 (UU会員)	スコア122
準優勝	尾崎 耕作 (UU会員)	スコア110	準優勝	瀬戸 利枝 (33期生)	スコア122
第3位	佐野 博昭 (UU会員)	スコア115	第3位	三浦 和恵 (33期生)	スコア127
第4位	荻原 博 (UU会員)	スコア117	第4位	牧野 文子 (35期生)	スコア131
第5位	渡邊 隆雄 (UU会員)	スコア120	第5位	石川 友子 (37期生)	スコア133

男性			女性		
優勝	山下 貢 (UU会員)	スコア129 (HC 10)	優勝	石川 友子 (37期生)	スコア150 (HC 1)
準優勝	西尾 敏明 (28期生)	スコア134	準優勝	鈴木まつみ (38期生)	スコア159
第3位	佐野 博昭 (UU会員)	スコア136 (HC 5)	第3位	大島 博子 (33期生)	スコア166
第4位	尾崎 耕作 (UU会員)	スコア143 (HC 7)	第4位	瀬戸 利枝 (33期生)	スコア168 (HC 7)
第5位	早瀬 俊幸 (UU会員)	スコア146	第5位	牧野 文子 (35期生)	スコア169 (HC 3)

※HC(ハンディキャップ)は1シーズン限り、優勝10点、準優勝7点、3位5点、4位3点、5位1点を加算
 ※7月24日の月例会は猛暑の影響により会員の安全を考慮しやむなく開催中止となった。

ゴルフ同好会

4月8日ギャラリー大通美術館2階会議室にて令和7年度総会が行われた。昨年度の活動報告ほか決算及び会計監査報告され、今年度の活動計画案としてコンペ開催の詳細、それ

に伴う同好会予算案など報告された。4人の新会員を含めた総勢32人でのスタートとなった。今年度は7回のコンペに加え10月にオープンコンペが予定されている。

優勝	里中 哲夫 (UU会員)	N 67	H 20
準優勝	北本 武雄 (19期生)	N 70	H 21
第3位	八戸 洋 (36期生)	N 72	H 22
第4位	渡邊 勝美 (38期生)	N 72	H 30
第5位	及川 隆夫 (UU会員)	N 73	H 18

優勝	林 邦生 (36期生)	N 66	H 20
準優勝	山田 学 (38期生)	N 66	H 32
第3位	舘田 周二 (UU会員)	N 68	H 24
第4位	鈴木 仁 (37期生)	N 68	H 32
第5位	林 妙子 (36期生)	N 70	H 36

優勝	林 妙子 (36期生)	N 72	H 34
準優勝	川尻 晴夫 (UU会員)	N 76	H 21
第3位	高橋 誠 (38期生)	N 79	H 20
第4位	渡邊 勝美 (38期生)	N 79	H 30
第5位	佐藤 恵子 (29期生)	N 79	H 34

優勝	鹿内 亨 (36期生)	N 66	H 25
準優勝	渡邊 勝美 (38期生)	N 68	H 30
第3位	高橋 誠 (38期生)	N 71	H 20
第4位	伊藤 正夫 (UU会員)	N 72	H 15
第5位	林 妙子 (36期生)	N 72	H 27

就任挨拶

この度、UHB大学を運営する株式会社トップ・クリエイション社長に就任いたしました辻本雅嘉と申します。

弊社は、今年で創立35周年となりました。私は35年前、テレビデザイナーとしてトップ・クリエイションに入社し、テレビ番組のテロップと呼ばれる字幕やフリップボードなどを作成する業務を行なっていました。

トップ・クリエイションでは、テレビ関連のデザイン業務、印刷物やホームページのデザイン・制作、ロゴやキャラクター制作、テレビCMやWEB広告の取り扱い、各種イベント業務等の運営をしております。

従業員30名程度の小さな会社ですが、今後とも皆様とともに成長していければと思っております。これからもよろしくお願いたします。

おめでとう

★第66回北海道書道展(北海道新聞社主催、道書道連盟、道後援) 第4部詩文書において小比賀秋水先生が入選されました。

★第53回北海道陶芸展(北海道陶芸協会主催、北海道新聞社共催)において、宇井栄美先生が奨励賞を受賞されました。

★第43回北海道シニア陶芸展(北海道陶芸協会主催)において、28期生西尾敏明さんが北海道教育長賞を受賞。18期生青井紀子さん、28期生鶴田靖子さんが会員優秀賞、30期生菊地好江さん、25期生安住栄子さんが会友賞、32期生川岸しのぶさんが奨励賞を受賞されました。

編集後記

今年度の文化祭は10月28日共済ホールにて舞台発表を開催、10月28日から11月2日までギャラリー大通美術館で作品展を開催します。ご家族やご友人などお誘いあわせの上、皆様のご来場を事務局一同お待ちしております。

発行
uhb 大学
事務局
 札幌市中央区
 北1条西14丁目
 北海道文化放送内
 (011)214-5225